

もうすぐお盆の季節です。今年も早く皆様とお会い出来ることを楽しみにしております。さて、この度普照院境内墓地（舞子墓園内）内に、永代合同供養塔『三界万霊塔』を建設致します。

基本的には宗教・宗派を問わず、お檀家様以外の方でも納骨していただけますので、ご親戚やお知り合いで今後に不安を感じていらっしゃる方がおられましたら、ご遠慮なくご相談下さい。

**\*完成図は普照院ホームページ内「普照院境内墓地について」をご覧ください。**

## 『三界万霊供養塔』建立のご案内

**\*本年 8 月初旬完成予定ですので、是非一度ご覧ください。**

建立場所：普照院境内舞子墓園内（歴代住職墓跡地）

【神戸市垂水区 神戸市営舞子墓園特別宗教宮域内】

- ・ お墓の跡継ぎがない方
- ・ 所有されているお墓の年間維持費が経済的に負担となっておられる方
- ・ 宗教・宗派の関係で家のお墓に納骨できない方
- ・ 子供がいても後々の負担をかけたくない方
- ・ 他の墓園に親戚等のお墓があり、そのお墓を整理したいがお骨の埋葬地がない方
- ・ 現在、親戚等のお骨を預かっており、埋葬地を探しておられる方
- ・ 生前に納骨所を決めておきたい方 等

\*詳細に関するご質問等は、いつでもお気軽に住職までご連絡下さい。

\*『三界万霊』とは・・・「三界(さんがい)」とは、仏教の世界観で私たち衆生(しゅじょう)が生まれてから死に至るまでの三つの世界、つまり淫欲(いんよく)と食欲(どんよく)の欲界(よくかい)、淫欲と食欲を離れた生き物の住む色界(しきかい)、物質を超越した精神のみが存在する無色界(むしきかい)をいいます。また「万霊(ばんれい)」は、この世における一切の精霊のこととされています。

## 住職が僧名を拝しました。 僧名 - 小田 義宗 (ぎそう)

本来僧侶は、『僧名』というものを得度(僧侶に成る事を誓う式)の時いただくものですが、私の場合は本名の宗治(むねはる)をそのまま「そうじ」と音読みし僧名としておりました。

しかし、普照院の住職となり色々な話をお聞きしておりますと、当院住職は代々『義』の文字を使用(22代義祥、23代義天)されていますので、この度『義』という字をいただくことを師匠後藤俊雄薬仙寺住職より認可いただき、『義宗(ぎそう)』という僧名に変更いたしました。(総本山届出済)

先代義天和尚のように、是非僧名で呼んでいただけると嬉しく思います。

(今後の郵送物は、全て僧名表記となります。)

\*今年の盆施餓鬼は、8月17日（日）です。（詳細は別紙にて）

場所；時宗 薬仙寺会館

時間；午後2時より

・本年より初盆精霊のご回向も勤修します。

\*参拝ご希望の方で場所等が不明の方は、地図等をお送り致します。いつでもご連絡下さい。

## ボーナスの話

私がまだ営業サラリーマンだったころの社内マニュアルに、『お客様との会話において、こちらから政治・宗教・ボーナスの話は謹むように』とありました。

確かに物を売るにあたって、政治や宗教の話をして、もし意見が合わなかった場合、その時点で販売促進が困難になってきます。しかし、ボーナスはなぜ？と当時思いました。その理由としては、『誰もが必ずボーナスをもらえる訳ではないので、もらって当たり前という具合で話をしてしまうと嫌悪感を抱かれる・・・』とのことでした。当時は今よりも不況が深刻でしたので、そういうマニュアルも必要だったのでしょうか。

さて、そのボーナスですが、どうして初夏と年末の『年二回』なのかご存知でしょうか。

その昔、日本にまだ「丁稚（でっち）奉公」という習慣があったころ、その丁稚達は今では考えられないほどの低賃金で働いておりました。今でいう修行期間ですから、お金がもらえるだけでもありがたいという考えだったのでしょうが、日々の暮らしに窮するくらいですから、里に帰りたくても勿論お金がありません。しかし、せめて盆正月くらいは親に元気な顔を見せたいと思うのが、古今問わず人情というものでしょう。そうです、その盆正月の帰省の為に、特別に丁稚達に支払われたのがボーナスの始まりと言われています。

ボーナスはカタカナ表記なので、てっきり外国の習慣が日本に輸入されたものと思っただけに、少し心温まった住職でした。もしかして、知らなかったのは私だけ・・・？

---

〔編集後記〕

来月には、普照院の新しい住所が登記されます。電話番号につきましては、今後も今年2月にご連絡させていただいた番号となります。まだ電話番号を変更されていない方は、再度ご確認の程宜しくお願い申し上げます。

普照院電話番号：078-671-1787

合掌

発行；[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-14 Tel078-671-1787

ホームページ：<http://fusyoin.com/>

\*普照院のホームページも是非一度、ご覧下さい。